

校長室だより(No.13)

令和3年7月20日
丹波市立黒井小学校長
谷口 千尋

「学校給食とSDGs」

一方向を向いて食べています



食べられる分だけ配膳します



巡回食育指導



前回の自然学校でもお伝えしましたが、SDGsとは、世界中のみんなが幸せに暮らしていくために、私たちがやるべきことをまとめた国際社会共通の目標のことです。

目標12は、「つくる責任 つかう責任」です。私たちは、地球上の資源を使い大量にいろいろなものを生産し、大量に消費しています。特に先進国では凄まじいものがあります。しかし、このまま、資源を使い続けると地球の限りある資源はどうなるのでしょうか。資源が無くなってしまふと同時に、いろいろな物を生産するために地球環境が破壊され、温暖化等の気候変動が世界各地で起こります。気候変動による大雨などで各地で大きな災害が既におきています。

そこで、地球の環境を守るために、私たちがやるべきことはどのようなことか考えるのがこの目標です。「消費すること」と「生産すること」の両方からしっかり考えることが必要です。

学校給食では、成長期の栄養のバランスを考え、子どもたちが少しでも残さずに食べるよう献立を工夫していただいています。また、各学校で毎日計量した給食の残食を計量し、各校に知らせるとともに、献立を見直すこともされています。子どもたちには、自分が食べられる量を配膳し、残さず食べることができるようにするなどの学校給食指導もすすめています。この取り組みは、目標2の「飢餓をゼロに」や目標6の「安全な水とトイレを世界中に」、また自然学校でもあげました目標14の「海の豊かさを守ろう」の目標にもつながっています。

本日で1学期の学校給食が終了しました。4月から学校給食をはじめた1年生も早く、しっかり食べられるようになりました。生産者さんや調理・配送にかかわってくださっている方々に感謝し、残食を出さないことを意識することで今後の学校給食を軸とした「食育」がより充実したものになると考えます。